

分担研究報告書

若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築

矢形 寛 埼玉医科大学総合医療センターブレストケア科 教授

研究要旨

一般に、若年乳がん患者はがん治療後に妊孕性が低下する危険性が高いことから、治療開始前に将来の妊娠希望や人生設計に関する心の整理を行う必要がある。また、がん患者とその配偶者は夫婦間コミュニケーションが悪化しやすいことも知られている (Knoll, 2012)。がん患者への心理介入が有効であることは明らかになっている。本研究の1年目で開発した「がん告知時期に行う忍容性温存に関する夫婦心理教育プログラム」の他施設合同ランダム化比較試験に参加し、研究計画立案補助、データ収集、成果発表の一部を分担する。

A. 研究目的

本研究の目的は、若年乳がん患者のサバイバーシップにおいて最も重要な課題の一つである妊孕性温存に関する心理支援体制の構築である。

B. 研究方法

本研究の目的は、若年乳がん患者のサバイバーシップにおいて最も重要な課題の一つである妊孕性温存に関する心理支援体制の構築である。

C. 研究結果

症例の登録を試みた。

D. 考察

主任研究者が考察する。

E. 結論

主任研究者が考察する。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案  
なし
3. その他  
なし